

日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム
第17回幹事会・コンソーシアム会議合同会議 議事録

- 日 時 2013年9月30日(月) 10時00分～11時40分
場 所 東京理科大学森戸記念館2階第2会議室(東京都新宿区神楽坂4-2-2)
出 席(敬称略)
代 表: 有信睦弘
副 代 表: 松瀬貢規、依田照彦
部会主査: 廣瀬壮一(部会1)、西方正司(部会2)、松村暢彦(部会3)
幹 事: 井端一雅(計測自動制御学会)、渥美純一(日本技術士会)、
玖野峰也(日本工学アカデミー)、塩見誠規(日本塑性加工学会)
委 員: 石村和男(日本技術者教育認定機構)、佐藤 勲(日本機械学会)
オブザーバー: 大橋一民(経済産業省)、植木 勉(科学技術振興機構)
維 持 員: 任 福継(徳島大学)
事 務 局: 木暮賢司
欠 席(敬称略)
部会主査: 松井幹彦(部会4)
幹 事: 高橋彰浩(土木学会)、青島泰之(日本技術者教育認定機構)、
岡田 章(日本建築学会)、岩本勝美(日本マリンエンジニアリング学会)
委 員: 井上裕嗣(日本非破壊検査協会)

配布資料:

- 000 日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム会議・幹事会合同会議 議題表
011 【別紙1】日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム規程
012 【別紙2】会費等運営内規「コンソーシアムが認めた団体」について(案)
013 【別紙3】科学技術人材育成コンソーシアム構成表 会員および委員・幹事等名簿(案)
021 部会1「情報共有」活動報告
0212 (部会1)科学技術人材育成に関する情報提供のお願い
022 部会2「教育支援」活動報告
023 部会3「教材開発支援」活動報告
024 部会4「国民に対する発信方策」活動報告
0241 (部会4)日本工学会科学技術人材育成コンソーシアムパンフレット(案)
031 「第5回科学技術人材育成シンポジウム(案)」

議 題:

1. コンソーシアム年会費について

内規に定める「コンソーシアム会議が認めた団体」の範囲について意見交換を行った。有信代表から、

- ・現在のコンソーシアム会員(正員)の年会費は、等しく3万円とする。
- ・今後、入会する「本会正会員以外の団体」についても原則として同様とする。

旨の提案があり、満場一致でこれを承認した。

2. 会議とその構成メンバーについて

有信代表から、規程改正に伴い、従来の総会を廃止し、

- ① コンソーシアム会議（委員および役員）を設置すること、
- ② 幹事会を役員（代表、副代表、幹事）およびオブザーバーで構成すること、
- ③ 幹事を、部会主査および渥美委員（日本技術士会）、青島委員（日本技術者教育認定機構、青島委員不在中は石村委員）、玖野委員（日本工学アカデミー）とすること、
- ④ 会務遂行のための幹事1名を追加し、佐藤委員（日本機械学会）を指名すること

の提案があり、満場一致でこれらを承認した。

3. 部会活動報告

(1) 部会1「情報共有」（メンバー：廣瀬主査、高橋、石村、大喜、任）

廣瀬主査より、本年度の部会1の活動方針とこれまでの活動状況について報告があった。

これに関連して、

- ・資料0212のように、日本工学会の会員学協会に科学技術人材育成に関する情報を定期的に提供いただくよう依頼すること
 - ・情報共有を目的とする部会1のメンバーを全委員とすること
 - ・Webコンテンツ充実のための仕組みの検討を専門家を含む少数メンバーで実施すること
- の提案があり、意見交換の結果、
- ・情報提供依頼については、原案の文言を精査の上、メールにて学協会事務局長宛に送付すること
 - ・全委員を部会1のメンバーとすることは当面見送ること
 - ・Webコンテンツ充実については、更新作業の人的リソースの問題を引き続き検討いただくこと

とした。

(2) 部会2「教育支援」（メンバー：西方主査、渥美、佐藤、岩本、塩見）

西方主査より、本年度の部会2の活動方針とこれまでの活動状況について報告があった。

関連して、平成26年8月27日に東京電機大（足立区）で開催される電気学会産業応用部門大会において、「教育現場の求める理科教育支援とは？-初等中等教育への支援のあり方-」と題するパネルディスカッションを開催することが報告された。

これらについて意見交換を行い、コンソーシアム傘下の学協会が実施する初等中等教育機関の教育環境改善への支援例に関する情報共有に際しては、JSTとの連携を模索することとした。

(3) 部会3「教材開発支援」（メンバー：松村主査、岡田、岩本）

松村主査より、本年度の活動方針として、各学協会における教材・教育プログラムの一覧の作成・発信と教材ガイドライン・優良事例の収集を計画している旨の報告があった。

関連して、優良事例の収集については、マイクロソフトによる教育支援システム等についても調査しては如何かとの意見があった。

(4) 部会4「国民に対する発信方策」(メンバー：松井主査、石村、玖野、石田、最上)

有信代表から、部会4の活動内容について、活動紹介チラシについては完成しており今後の広報活動に利用いただきたいこと、第4回コンソーシアムシンポジウムのプログラム・映像コンテンツをホームページにアップする予定であることが報告された。

4. 平成25年度シンポジウム開催計画(案)について

廣瀬幹事から開催案内文案が提示され、以下の討論を行い、講演者依頼・修正文案を以下の通り分担することとした。

- ・基調講演は柘植会長に依頼済み。但し、初等、中等だけでなく大学教育まで含めたい意向もあることから、今回のシンポジウムのテーマ、内容を本日の議論を踏まえて依田副代表から柘植会長に伝える。
- ・「テーマ：若者の理科離れは改善されたか」について、より前向きな印象の修正案を佐藤幹事が検討する。
- ・「開催趣旨」について、各自意見を廣瀬幹事に伝える。
- ・主催は「日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム」とする。
- ・「共催」は「協賛」に変更する。
- ・総司会：廣瀬幹事、開催挨拶：有信代表、パネル討論コーディネータ：松瀬副代表、閉会挨拶：依田副代表とする。
- ・「小中学校の現状(PISAなどをバックに)」については国立教育政策研究所の専門家にデータに基づいた講演を頂くこととし、植木オブザーバーに人選をお願いする。
- ・「SSHの現状」については、JSTの講師として、植木オブザーバーに委任する。
- ・「大学の参照基準の現状」については、北原先生等に依田副代表が交渉する。
- ・マスコミは、日経の横山氏【鱸(スズキ)氏】等を想定するが、より適任の方があれば各委員から提案願うこととし、有信代表が交渉する。

次回コンソーシアム会議までの調整、修文については幹事会に一任することを確認した。

5. 次回コンソーシアム会議開催日程

シンポジウム企画を固め案内文を確定するため、11月中下旬を目処に、メールで日程調整することとした。

以上